「東京おひさまベリー」鉢植えの管理方法

1 置き場所

○ 鉢植えが届いたら、すぐに箱から出し、日当たりのよい場所に鉢を置きます。

○ 屋外の場合、日当たりとともに風通しもよい場所に、地面直でなく台などの上に置きます。地面に直置きしますと、雨や灌水のときに泥水が果実や葉に跳ね上がって病気の原因になります。

2 灌水（水やり）

○ 鉢土の表面が乾いたら、鉢の縁まで水を溜めて、鉢底から水が出てくる程度、たっぷりと灌水します。

○ 水を上から勢いよくかけると、葉や果実に泥水が跳ね上がってくるので、株元近くになるべく静かに与えるようにします。

○ ただ、害虫の予防として週に1回程度、水を上から株全体のかかるように与えます（とくに室内に置く場合）。または、霧吹きで、葉の裏表に散布してもよいです。

3 施肥

○ 今回は、収穫が終わるまでは施肥は不要です。

4 葉かき（枯葉やランナー除去）

○ 枯葉や黄色くなった葉、垂れ下がっている葉などをこまめに取り除きます。

○ このとき、葉を手前に引っ張って取るのではなく、株元の葉の付け根部分を持って、ページをめくるように取り除きます（右写真）。

○ 収穫期間中は、伸びてきた「つる」（ランナー）も株元からハサミで切り取ります。

5 受粉

○ 室内やマンションの高層階のようなミツバチなどの昆虫が来ない場所では、花が咲いたら人工授粉を行います。

○ 花粉がよく出る晴れた日の午前中に、毛先の軟らかい筆やブラシ、耳かきの梵天などで花の中心部をそっとなでるようにして受粉します（右写真）。

6 病害虫防除、鳥よけ

○ 病害では灰色カビ病（下左写真）、害虫ではアブラムシ（下右写真）がよく発生します。

○ 灰色カビ病は、こまめに葉かきを行い、風通しをよくすることが予防になります。発生したら、カビが付いた果実や枯葉は速やかに取り除いて捨てましょう。

○ アブラムシは、株全体に時々水をかけて予防します。発生した場合、ごく初期の少数ならブラシなどで払い落とします。増えてきたら、食品添加物である脂肪酸エステルの家庭園芸用農薬を散布します。

○ 実が赤くなってくると鳥に食べられてしまうので、室内以外は鳥よけのネットなどを被せます。

7 収獲

○ イチゴの実全体が赤くなってきたら食べごろです。

〈注意〉この品種は種苗登録されています。苗の自家増殖は可能ですが、増殖した苗は有償、無償を問わず他人に譲渡することは禁止されています。 PVP